

第52回織田幹雄記念国際陸上競技大会のポスターについて

「夢中で工夫をこらすことこれが私の人間性」～わが一代記ノートから～

企画広報委員長

藤原 文代

今回のポスターのテーマは「工夫の種」

織田幹雄という人物が、何を大切にしてきたか。

自身の父親から何を教わり、信念として生活してきたかを探った。

1928年までをまとめた自筆の戦前の記「わが一代記ノート」（陸上競技）に、

「なんでも工夫するということを父から教わった」とあった。

父親から命じられた掃除、風呂焚き、水汲み、薪割り、・・・

いかに早く、効率よくすませるか。

水汲みも紐ではなく竹竿の先に桶をくくりつけ、水を汲み上げる、腕をどれくらい広げて竿を持つと、早く引き上げられるか。何をすることも頭を働かせポイントを探り、試した。

全ての仕事に対し、夢中で工夫をこらした。

この工夫の習慣は、勉強にも競技にも役立った。

競技をするようになってからも、夢中で工夫をこらした。

「・・・夢中で工夫をこらすこと・・・これが私の人間性であった。」と織田幹雄は語っている。

私はこの文章から、織田幹雄が限られた環境の中で、世界に通じる力を付け、

活躍した原点を見たような気がした。

織田幹雄が育った海田町の花は、ひまわり。

この度は、一輪のひまわりに織田幹雄の姿を重ねた。

多くの「工夫の種」が、自身の活躍のみに留まらず、後世の競技力向上、選手の育成、競技人口の増加に繋がった。

「夢中で工夫をこらす」と普段、私たちはあまり使わない。

何事にも夢中になることの大切さも、子どもたちに引き継いでいって欲しい。